

都産技研では異業種交流事業として「東京都異業種交流グループ」の発足を支援しています。各グループで活発に活動が行われるなか、2022年8月には異業種交流グループの一つである「イノベーション多摩26」にて、メンバーによる合同会社「イノベサスHD」が設立されました。法人化に至った経緯や、今後の展望などについて、合同会社イノベサスHDの皆さんに話を聞きました。



交流会で登壇する合同会社イノベサスHD 島田氏

## 異業種交流グループから設立された、 「合同会社イノベサスHD」の取り組み

### 中小企業のシナジーを生む 異業種交流事業の取り組み

東京都異業種交流グループは、異なる業種・分野を持つ都内中小企業が交流し、経営課題の解決や異業種共同による製品開発を行う“場”です。都産技研では、毎年新規のグループを立ち上げ、発足1年目の交流活動を支援しています。発足1年目は、経験豊富な助言者を配置してグループの運営を支援し、2年目以降は徐々に自主運営への移行を促す形です。また、グループ同士の交流を深める「合同交流会」も年1回開催しています。

現在26グループ・約300社が活動しており、月一回の定例

会をはじめ、情報交換会や勉強会などを通じて、自社ブランド構築や後継者問題、海外展開といった課題解決に取り組んでいます。参加企業同士で共同開発を行った事例も複数あり、経営や技術に関するノウハウを持ち寄る場として機能しています。

### より活動を広げるため 「法人化」という選択

「イノベーション多摩26」は、2014年に多摩地区の異業種交流グループとして発足しました。金型製造、ITサービス、デザイン、法務など多種多様な業種のメンバーが集まり、共同開発によって『古紙Deポイント』や『蛇口Niカバー』とい



左:『古紙Deポイント』(2016年発売、商標登録済) 中央:『蛇口Niカバー』(2022年開発、販売中) 右:『スマホWoチャージ』(2023年開発、実用新案・特許申請中)

た製品を販売し、『スマホWoチャージ』のような技術(特許申請中)を生み出すなど、活発に活動してきました。法人化に至ったきっかけの一つには、ある共同開発での「教訓」があったといいます。

「IoTで中小河川の水位をモニタリングする仕組みを構想していた際、助成金を申請しようとしたのですが、法人申請が前提だったのです。より大きな取り組みを実現するには、法人化を考えた必要があると学びました」(合同会社イノベサスHD 島田文生氏)

この教訓を踏まえ、グループを法人化したいというメンバーの「想い」が高まったことを受けて、合同会社イノベサスHDは設立されました。社名の由来は「イノベーション」と「サステナビリティ」を合わせた造語であり、SDGsの課題解決に貢献するという意味が込められています。

### 異業種交流会がより発展する 「起爆剤」になれば

会社設立から一年余り、当初は「早く最初の製品を」という焦りもありましたが、時が経つにつれ考えが少しずつ変わってきたといいます。

「利益や採算を考えるのは、皆さん自分たちの会社でやっています。せっかく合同会社という器ができたわけですから、そうした“しがらみ”から一旦離れて、もっと自由にアイデアを形にしていけたらと」(合同会社イノベサスHD 浅倉亮氏)

定例会では、事業のアイデアが提案される一方で、各専門分野からの鋭い指摘が飛ぶことも。それでも自由闊達な議論ができるのは、「これまでの交流で心理的安全性が担保され

ているからでは」と島田氏は話します。東京都異業種交流グループ初の「法人化」という選択に至ったのも、多様な参加者同士が安心して発言できる“場”があったことでしょう。

「今回の法人化が、異業種交流会がさらに発展する起爆剤となり、各グループ間の交流の活発化や、ひいてはビジネスチャンスの創出につながれば。ご興味がありましたら、ぜひ私たちの交流会に参加していただけたらと思います」(合同会社イノベサスHD 一同)



合同会社イノベサスHDのメンバー



異業種交流事業の  
詳細はこちら



<https://www.iri-tokyo.jp/site/jigyou/igyoushu.html>